

わかたけ



さいふ



すみれ園



すみれ園



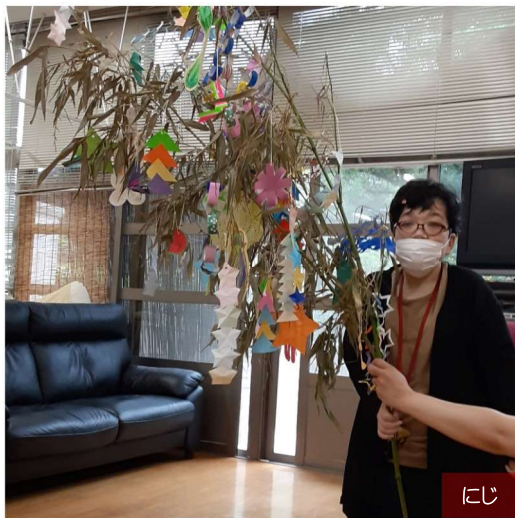
2023/07
やまもも



それぞれのセタ
星に願いを



幸府園



にじ



2023/07/02
ゆり工房



2023/07/02
やまもも

目次
2ページ 令和4年度 法人の主な実施事業と決算 / 3ページ 人材育成の取り組み
4ページ 地域密着を目指して / 5ページ コミュニティとの関わり / 6ページ 地域の方に支えられています。

○令和4年度 法人の主な実施事業と決算

令和4年度も昨年と同様、新型コロナウイルス感染防止に関して、当法人緊急事態対策本部の準備及び設置を繰り返しながら対応してきましたが、各拠点とも利用者・職員の感染が見られ、保育や支援活動等の制限等をせざるをえない状況がありました。利用者やご家族に、また、地域の方々や太宰府市をはじめ関係機関から、多大なご協力とご支援をいただいたことに感謝申し上げます。

アクティビティセンター・コミュニティホール さいふ 開設



○アクティビティセンター（1F）

通所利用者の感染防止と個別支援による重度者への対応ができるようになりました。

○コミュニティホール（2F）

70名程度を収容でき、会議や研修会、ダンスなどの軽い運動などに活用できます。さらに、太宰府市との協定で災害時の福祉避難所となっています。

地域の福祉を目的とした諸活動でのご利用が可能です。

新型コロナウイルスクラスター発生

入所施設で利用者の外泊帰園による感染から、入所者と職員に感染が拡大しクラスターとなりました。

利用者やご家族、地域の方々、太宰府市をはじめ関係機関から、多大なご協力とご支援をいただいたことで、幸に、1ヵ月程度で終息し、安定した生活に戻ることができました。



人材確保

令和5年度に向けて、5名の方を採用し支援体制の充実を図ることができました。

人材育成等については、新型コロナウイルス感染のためにリモートによる研修や分散した研修を実施しました。

経営状況

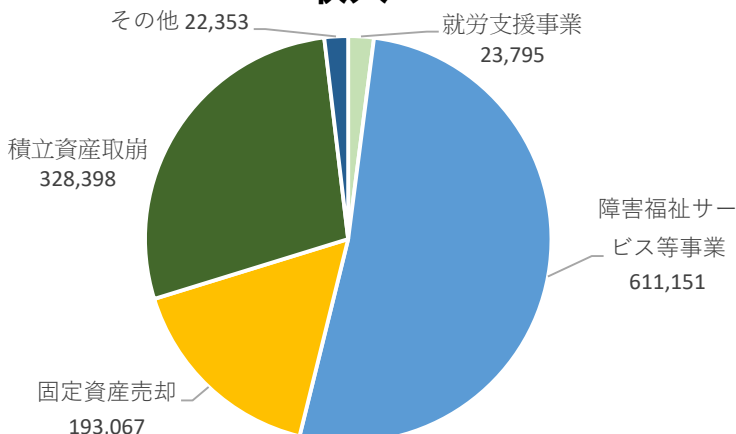
各事業の稼働率や定員の充足率の対応が新型コロナウイルス感染対策により、十分に対応できず収入減となりました。



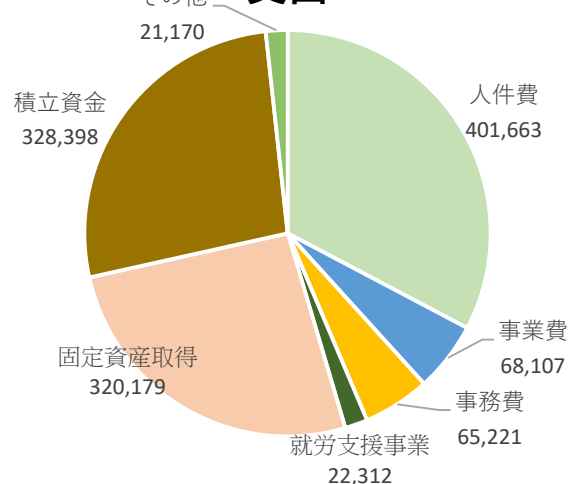
令和4年度 宰府福祉会 予算決算

(単位：千円)

収入



支出



●職場交換研修

6月に、一般職の職員を対象にした交換研修（法人内の別の施設で支援に携わる研修）を実施しました。この研修の目的は、法人職員としての役割意識の向上や、利用児者への姿勢や支援の創意工夫、業務改善への学び、また、子どもから大人へとライフステージのつながりを意識した支援への気づき等を得ることでした。研修が終わり職員からは以下のような感想が聞か

れました。

他施設で支援を行うという慣れない経験は、職員にとって多くの気づきを与えてくれたようです。今回の研修は終わりましたが、職員には学びを自施設に持ち帰り、支援の質の向上につなげてもらいたいと思います。

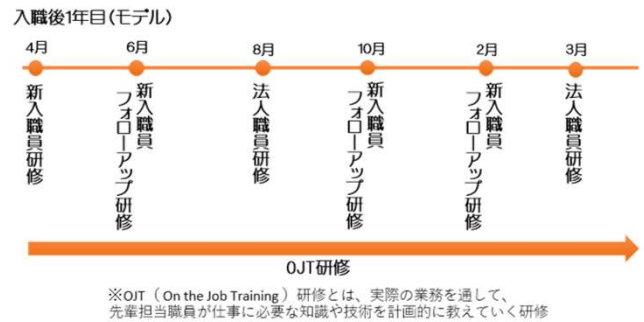
研修委員長 開

★職員の感想

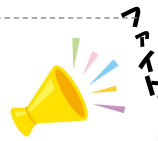
- 「子どもたちの将来をイメージすることができ、大人へと成長していく中で、社会生活にその人らしく適応する力をつけていく大切さを感じた。」
- 「利用児者の方々がお互いに助け合ったり、職員が介助しすぎないよう支援する姿から、皆さんが人との関係性の中で主体的に生活を送るためには、どのように支援をしたらよいかを改めて考える機会となった。」
- 「研修先の施設のように業務分担や役割を整理して、自施設の業務効率を上げたい。」

●新入職員育成の取り組み

宰府福祉会では、新入職員の育成を積極的に行っています。新入職員一人ひとりにOJT担当職員を決め、担当職員を中心に施設全体で育成に取り組んでいます。



★インタビュー（令和5年5月インタビュー実施）



① 仕事で楽しいこと・大変なこと

- 「子どもたちと一緒に遊んでいる中で笑顔を見ることが出来た時。子どもの気持ちが崩れた時にどんな対応をしたら気持ちが落ち着くのか悩むことがある。」
- 「コミュニケーションをとることが難しいかたの気持ちを汲み取ることが出来たらうれしい。」
- 「利用者さんから名前を覚えてもらったり、自分に興味をもってくれていると感じた時うれしく思います。利用者さんの情報がちやごちゃになってしまうことが大変です。」

② 今後の目標

- 「子どもたち、保護者に寄り添える保育士になりたい。」
- 「子どもの『できた』と一緒に共有できるような職員になりたい。」
- 「他施設の利用者さんともコミュニケーションを取りたい」



●新入職員フォローアップ研修

6月に新入職員フォローアップ研修を実施しました。

「入職3ヵ月になり、これまでの振り返りを行いながら、業務の中で生じた様々な不安や悩み、現在の自分ができていること・できていないこと等を出し合い、課題を共有しディスカッションするなかで、福祉職員としてのあり方や現場のチームワーク強化、今後の自身のモチベーションの醸成等に役立ててほしい。」という趣旨で行いました。



★新入職員の感想

- 「利用者個々に合わせた支援という難しさに直面しているのは自分だけではないことを知れて良かった。」
- 「同期の仕事ぶりを聞いて自分の振り返りをするのができ良かった。」
- 「自分の仕事だからと抱え込んだり一人で解決しようとしてしまうのではなく、支援現場はチームワークが重要」
- 「自分の傾向を分析することで、今できることできないことや、支援をするのに必要なことが理解できた。自己覚知しながら今後の支援に繋げたい。」
- 「自身の傾向として他職員やスケジュール進行を気にかけるのではなく、まずは利用児者第一で支援するようになりたい。」



●福岡県障がい児等療育支援事業

第1回 支援者向けの研修会を開催しました

令和5年6月17日土曜日午前、地域の幼稚園、保育園の先生、学童保育の支援者を対象に、研修会を実施しました。講師は、中村学園大学の准教授で、社会福祉士、臨床心理士の資格を持ち、多方面で活躍されている、重橋史朗先生。テーマは「集団生活の中で、気になる子どもたちへのかかわり方について～子どもたちとかわる際に大切にしたいポイント～」

太宰府市、春日市、筑紫野市の幼稚園、保育園、学童保育から40名の方が研修会に参加されました。

「合理的配慮」の話から発達障害の基礎知識、

具体的ななかかわり方のポイントなど、とても分かりやすくお話していただきました。研修後のアンケートでも「今後の実践につながる」と9割を超えるの方が回答してくださいました。

今後も、「施設支援」（療育支援事業）の一環として、支援者向けの研修会等を企画して、筑紫圏域の地域の障がい理解の促進等に努めてまいります。

次回は、7月22日に「ことばとコミュニケーションが育つ道のみ」をテーマに研修会（講師：今村言語聴覚士）を開催予定です。

相談管理者 井上



療育支援事業とは

福岡県より委託を受けて行っている事業です。

当法人では「児童発達支援センターすみれ園」を中心にしながら、筑紫圏域の障がい児者のライフステージに応じた地域での生活を支援するために、関係機関と連携を図りながら、相談支援、療育指導などを行っていきます。

- ① 在宅支援外来療育等指導事業
- ② 在宅支援訪問療育等指導事業
- ③ 施設支援一般指導事業

3つの事業の機能を有しています。

●ライフレスキューに参加しました

太宰府市社会福祉協議会さんより依頼を受けて、「ライフレスキュー事業」に参加しました。宰府福祉会以外にも二法人、太宰府市障がい福祉課係長、社協の方、総勢10名で一人暮らしの自宅の清掃、ごみの搬出を行いました。その後、社会福祉協議会さんが中心となって、福祉サービスの利用にもつながって、安定した生活ができる見通しも立ったようです。



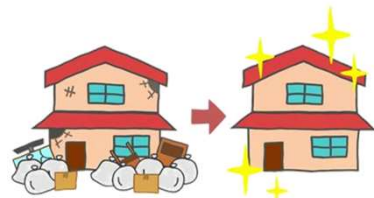
参加者の声

ライフレスキュー参加が初めてで、いわゆる「ごみ屋敷」と聞いて準備していましたが、思った以上に現場の状況はひどかったです。「病気にかからなくてよかった」という思いと、たばこの吸い殻もたくさんあったので「火事にならなくてよかった」という思いで、片付け後はホッと安心しました。ご自身も「気になっているけど、どうしていいかわからない状態だった」と言われてました。終了後のご本人の笑顔が忘れられません。

(ゆり工房 古賀)

初めての体験でした。何といたってもご本人が笑顔で「ありがとうございました」と最後にお礼を言われたことが強く印象に残っています。これから先の生活でお手伝いして下さるサポーターにもつながっていると聞き、安心しました。また、このような機会があったら是非参加したいです。

(すみれ園 待鳥)





●通所施設との関わり

那珂川市南畑地区 移動販売車

那珂川市南畑地区では今年から、公民館や駐車スペースのあるご自宅等、ポイントになるところを回る移動販売がスタートし、やまもも利用者も時々おじゃまして地域の方と一緒に買い物を楽しんでいます。

また、買い物に加えて、先日からはやまももの製品も販売させていただくことになりました。

地域の皆さまにはいつも支えていただき感謝の気持ちでいっぱいです。



どれにしようかなあ



やまももの製品もあるよ

●入所施設との関わり 生活の心強いサポーターいろいろ



毎週月曜日夕方にくる移動販売車。食品から日用品まで運んでくれるスーパーマーケット。毎週心待ちにしています。



社会福祉協議会さんの金銭預かりサービスは助かっています。月2回。



月2回、太宰府市図書館より移動図書館がやってきます。CDや雑誌、本を借りるのを楽しみにしています。

自治会長インタビュー

今回は、自治会長インタビュー企画第一弾として、「太宰府市ひまわり台区自治会」の平田はるみ会長にお話をうかがいました。



太宰府市ひまわり台区自治会
平田はるみ 会長

❓ 就任は？

今から3年前です。副会長を経て会長になりました。実はそれまで仕事一筋、近所のお付き合いもしたことがありませんでしたが、仕事も一段落し、会長をお引き受けしたんです。

❓ 自治会長としてのモットーは？

私は人の健康に携わる仕事をしてきたので、とにかく「元気でいること」を心がけています。「人生100年時代」と言われるなか、仕事をリタイアした後も、継続して働いている高齢者はとても多いですが、ご近所や地域のためを思い、活動する高齢者は残念ながらまだ少ないと感じます。

❓ 地域の問題や課題は？

先ほどのお話にも通じますが、元気な高齢者が意欲的に働くことはあっても、それは自分のため。自分も働いていたので、よくわかります。でも、その元気を地域のために役立てようと思う人はまだまだ少ないと感じます。そもそも、まだ福祉的な理解は進んでおらず、地域で抱える困難なご家庭や事例に積極的に関わることも難しく感じます。地域で暮らす人たちが、その人たちの思いで主体的に生活できる町づくりをすすめたいと思います。介護が必要な方でもサービスを受け、在宅の生活を続けたいと思えば、その思いに寄り添いたい。「危ないから」「施設だと快適」というような言葉で、相手の価値観を変えることはしたくないと思っています。障がいをもつ人が暮らしやすい家は、誰が住んでも暮らしやすい、そんなユニバーサルな考え方をもちたいです。

❓ 福祉的な関わりを通して感じることは？

宰府園の利用者のみなさんの作業や活動の様子を見たり、実際に関わることで、自身の「振り返り」ができます。正直、地域のお世話は大変と感ずることがあります。でも、みんなのピュアな真剣さに触れることで、「私も頑張ろう」と前向きになれる。みなさんが公園の草取りをしている姿を地域住民が見るだけでも、啓発の意味があると思っています。楽しみながら、自然に交流できたらいいなと思っています。

～インタビューを終えて～

平田会長は熱い人でした。会長を受けた時、「これは変えていかなければ」と改革することを意識されたとのこと。まず、ご近所で何に困っているのか、なぜトラブルが起こるのか、身近なところに目を向け、自分のできることから取り組み始めたとも。そうするうちに賛同する仲間も増えて、元気な地域になってきたんですね。協力者や理解者が波紋のようにジワジワと広がっていくことに手ごたえも感じていらっしやるようでした。パワーをもらえました。ご協力ありがとうございました。

幸府園入所利用者さんにインタビューしてみました！！



今回、入所施設である幸府園の利用者さんにインタビューをしてみました。365日、施設を住まいとして利用していることから、通所で利用している利用者さんとはまた違った思いが多くあると思います。今回は、そんな利用者さんに生活の困り感を聞いてみました。

①「幸府園の生活で困ったことがありますか？」

「楽しい」「充実している」「特に困っていない」と答えた利用者さんは、41%。半数以上の利用者さんが困りごとを抱えていることがわかりました。中でも多かったのは、「余暇」「健康」に関することでした。「余暇」に関しては、『買い物に行きたい』『外出したい』など。数年間コロナ禍の中で行動が制限されたことで、満足にお出かけや買い物も行けないことが続き、不自由な生活を強いられた現実があります。そのような中で支援として、移動スーパーの利用や幸府園の中での活動充実を行ってきました。

「健康」に関しては、身体的な障がいから、自身の機能を維持させていきたいという強い思いを感じました。その他少数意見では、「食事」のことや「人間関係」などのご意見をいただきました。

今回のインタビューで出たご意見をこれからの支援に活かし、より良い施設生活を提供できるようにしていきたいと思っております。
(令和5年4月時点)

地域の方々に支えられています。



ボランティアさん、いつもありがとうございます。 in 幸府園

ロバの耳

毎週水曜日の午前中、傾聴ボランティアグループ「ロバの耳」（太宰府市）から正木代表をはじめメンバーの方々が来られています。1年前、太宰府市社協さんに紹介していただきました。

利用者の輪の中に自然に入って会話をしてくれます。最近では、正木代表の奥様が育てている季節の花束も毎週のように届けてくれて、心に潤いをもたらしてくれています。

先日「いつも来てくれてありがとう」の気持ちを込めて、『感謝カフェ』をオープンしました。心から感謝します。ありがとうございます。



色々な話をきいてくれます



季節の花々にも心いやされます...



感謝をこめておもてなし。いつもありがとう！



毎週楽しみにしています

スマイルケア

毎週金曜日に運動やレクリエーションのボランティアさんが来ています。

みんなで輪になって運動したり、畳マットを敷いてストレッチしたり、普段、体を動かす機会が少ない利用者さんたちにとってはとてもありがたい存在です。

ご近所の方のご厚意でお庭の「すもも」をいただきました。



すももを収穫する利用者さん



さあ、手を上げて



曲げて～伸ばして～



輪になって運動！

草刈りボランティア

幸府園は敷地が広く山にも面しています。特に雨の多いこの時期は草の伸びが早く、草刈りは大仕事です。近隣自治会から紹介されたボランティアの本道さんが、草刈りボランティアとして来園してくるようになりました。車や人がいない時に来て、刈ってくれています。まさに縁の下の力持ち！

自分の体のために運動を兼ねて始めたんですけど、人から感謝までされて一石二鳥です！



介助補助ボランティア

今年から送迎バスの介助と入所入浴の介助補助にお近くに住む小田さん(女性)がボランティアとして協力してくれています。「自分の生活も楽しみながら、お役に立てればという気持ちで始めました」と小田さん。大変助かってます。

